

報道発表資料の配付日時 7月29日(水) 15時00分

発表項目 (行事名)	<b>第8回北海道自動車安全技術検討会議の開催について</b>
概要	<p>○本検討会議は、本道のポテンシャルを活かして、交通安全や高齢者の移動支援といった社会課題の解決に貢献するとともに、研究開発面から本道への自動車産業の一層の集積を促進するため、<u>産学官の連携のもと、自動運転に関し、企業等が行う実証試験の円滑化や研究開発の促進などに資する環境整備や情報提供を行うことを目的に、平成28年6月に設置。</u></p> <p>○第8回会議※では、北海道警察本部より、昨年9月に改訂された自動運転の公道実証実験に係る道路使用許可基準について説明いただくほか、損害保険ジャパン株式会社様による自動運転社会の実現を見据えた保険のあり方の検討状況や石狩市による地域課題解決に向けた自動運転の実証実験結果報告等を行う予定。</p> <p>※過去の開催状況 第1回：H28.6.9 第2回：H29.2.28      第3回：H29.9.8 第4回：H30.3.23      第5回：H30.8.27 第6回：H31.3.15      第7回：R元.8.22</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日時：令和2年8月3日(月) 14:00～16:00</li> <li>場所：TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5階 はまなす (札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館)</li> <li>議事：別紙次第のとおり</li> <li>参集範囲             <ul style="list-style-type: none"> <li>参画機関(北海道警察本部、北海道開発局、北海道運輸局、北海道経済産業局、NEXCO東日本、大学・高専、研究機関、関係市町村、道等)、道内にテストコースを立地する企業、自動運転に関心のある企業等</li> </ul> </li> </ol>
参 考	・検討会議の概要は、別紙のとおり。
報道(取材)に当たってのお願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転に関する道内での取組等を説明いたしますので、当日の積極的な取材につきまして、ご協力をお願いいたします。</li> <li>・新型コロナウイルス感染予防のため1社1カメラ1ペンでお願いします。</li> <li>・マスク着用のご協力をお願いします。</li> <li>・発熱や咳、くしゃみ等、風邪の症状のある方は取材をお控え願います。</li> </ul>
他のクラブとの関係	同時配付(場所) 同時レク
担 当 (連絡先)	(北海道自動車安全技術検討会議窓口) 経済部産業振興局産業振興課(担当者：田村、金子) TEL ダイヤルイン 011-206-6756(内線26-813)

## 第8回 北海道自動車安全技術検討会議 次第

日時：令和2年8月3日（月）14:00～16:00

場所：TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5階「はまなす」

北海道札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館

### 1 開会

### 2 挨拶 北海道 経済部長 山岡 庸邦

### 3 議事

#### (1) 事務局からの活動状況報告 (10分)

北海道 経済部 産業振興局 産業振興課

#### (2) 情報提供

##### ① 自動運転の公道実証実験に係る道路使用許可基準の改訂 (15分)

北海道警察本部 交通部 交通規制課 都市交通対策第一課長補佐 山田 憲昭 様

##### ② 自動配送ロボットの基準緩和認定制度について (10分)

国土交通省北海道運輸局 自動車技術安全部 技術課 専門官 成田 良勝 様

##### ③ スマートモビリティチャレンジ2ndの取組について (10分)

経済産業省北海道経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課 課長補佐 米谷 美枝 様

休憩（換気） (5分)

##### ④ 寒地土木研究所からの報告 (10分)

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

##### ⑤ 自動運転車と保険、損保会社の取組み (15分)

損害保険ジャパン株式会社 リテール商品業務部  
ニューマーケットユニット 特命課長 岩瀬 賢人 様

##### ⑥ 石狩市花川北地区における自動運転の実証実験結果報告 (15分)

石狩市 企画経済部 企画課 交通担当 課長 上窪 健一 様

#### (3) その他（全体質疑等）

### 4 名刺交換会

### 5 閉会

# 北海道自動車安全技術検討会議の概要について

## 1 目的

- ・本道のポテンシャルを活かして、交通安全や高齢者の移動支援といった社会課題の解決に貢献するとともに、研究開発面から本道への自動車産業の一層の集積を促進するため、産学官の連携のもと、自動運転に関し、企業等が行う実証試験の円滑化や研究開発の促進などに資する環境整備や情報提供を行う。

### 【本道のポテンシャル】

- ・全国最多、28のテストコースが集積。
- ・広大な土地や寒冷な気候を活かし、多様な実証試験モードの提供が可能。
- ・理系大学をはじめとした研究機関やIT企業などが集積。
- ・自動運転を取り巻く社会課題に関する多くの実証テーマが存在
  - 交通事故抑止、移手段の確保（高齢者・観光客等）、冬道対策など

## 2 取組内容

- ①北海道自動車安全技術検討会議の開催（年2回程度）
- ②自動運転の実証試験に関するワンストップ相談窓口の運営
  - 警察庁「自動走行システムに関する公道実証実験のためのガイドライン」に基づく関係機関の事前連絡の円滑化。
  - 企業の開発ニーズに応じた公道実証試験の適地選定の参考となる道路の情報提供。
  - 自動運転などの自動車安全技術に関する大学等や道内企業の研究・技術シーズ等の紹介・マッチング。
  - テストコースや研究開発施設の新増設に関する各種支援制度や、関係法令に関する諸手続などの紹介・相談。
  - その他道内での自動運転に関する研究開発や公道試験などの相談・情報提供。
  - 道内での社会実証事業の実施を希望する自動車関連企業等と、地域での実施を希望する市町村等の紹介・マッチング。 など

## 3 取組イメージ

※R2. 7月現在

